

## 進捗状況の概要 【1ページ以内】

本事業の進捗状況、成果、発展の課題は以下の通りである。

1. **カリキュラムの整備**：①紛争解決学に関する先進的研究を参考に、専門家による助言を受けながら、教育カリキュラムの内容と実践について調査を行い、初級（入門）・中級（実践）・上級（研究論文・個人プロジェクト製作）の三つのレベルから構成される**必修科目をデザイン**し、平成29年度より開講した。②高麗大学校、北京大学から学生ならびに教職員の参加をえたフィールドリサーチ中心の**サマースクールとウィンタースクールを実施**した。こうした短期集中プログラムにおいては、共通のテーマ設定（サマーは歴史認識、ウィンターは社会変革）を行い、フィールドトリップやワークショップなどの経験を通じて学生自身が動き考える革新的な教育手法を導入した。③CCDL教育を、平成30年度カリキュラムの一環として推進する体制を、三大学間で整えた。
2. **プログラムの開始**：①各大学のプログラム委員会（PC）により、各プログラムへの参加学生の公募、選抜を開始した。またその実施に向けて、三大学間で、選抜の基準となる評価システム（語学力、GPA、プログラムに対する意欲を総合的に評価する基準）の共通化をはかった。②プログラムの実施状況にあわせて、選抜基準や評価システムの見直しなどを、三大学合同で検討していくことを合意した。③三大学合同で発行されるプログラムの修了生に対する修了証について議論を重ね、プログラムを修了した学生について発行されるCAMPUS Asia Certificateの準備が整った。
3. **三大学共同事業の展開**：①毎年持ち回りで**国際シンポジウムを三大学合同で開催**する体制を整備した。平成29年度は、新しい紛争解決学の国際発信をめざしたシンポジウムを早稲田大学において開催し、事業の推進に向けた相互理解を推進すると同時に、その内容を広く広報するよう努めた。②**三大学合同の運営委員会(ICPC)を定期的開催**する体制を整えた。対面または遠隔システムを利用した定例ミーティングを通じて、(1)インターンシップやフィールドリサーチ、CCDLゼミ等の新しい教育手法に基づく科目群の導入、(2)厳格で透明かつ柔軟に運用が可能な成績管理体制の構築をすすめた。③新しい教育手法の導入に向けた**FDワークショップを三大学合同で開催**し、(1)インターンシップ、フィールドワーク、サマースクール/ウィンタースクールの形式や内容についての理解の共通化、(2)アクティブラーニング、プロジェクトベースドラーニングといった新しい教育手法の紹介とトレーニング、(3)外部専門家による教育内容・教育実施計画についてのモニタリングを実施した。
4. **広報活動の展開**：①プログラムの内容を伝える**ウェブサイトを整備し、SNSと連動**させることにより、柔軟かつ迅速な広報活動を実践する体制を整えた。ウェブサイトの作成においては、動画コンテンツを充実させ、面白くかつためになるページづくりを心がけた。<https://www.waseda.jp/campus-asia/>  
②プログラムの参加学生を対象に、定期的にニュースレターを発行・送付する体制を整え、キャンパス・アジア履修生としての、大学の枠を越えたアイデンティティ構築に努めた。**ニュースレター**の作成は**学生が主体的に主筆**として参画し、これまで7号を発行した。  
③一般学生を対象に、国際機関等で活躍する実務者と直接接する機会を提供するキャンパス・アジア**セミナーシリーズ“Waseda Meets Global Leaders”**を定期的開催し、プログラムの認知を深めた。

## 【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成28年度				平成29年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
10人	0人	10人	0人	30人	7人	30人	18人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

1. **多様かつユニークなキャンパス・アジア科目群の新規開講**：プログラムのコアとなる英語セミナー科目を、初級（入門）・中級（実践）・上級（研究論文・個人プロジェクト製作）の三つのレベルで新たに開講し、**アクティブラーニングの手法を全面的に導入**した。また、英語の能力が十分でない学生を対象に、日本語科目「平和をつくるプロフェッショナル」を準備し、コア科目への導入とした。
2. **サマー／ウィンタープログラムにおける革新的教育手法の導入**：高麗大学校、北京大学から学生と教職員を招聘し、8日間にわたり実施したサマー／ウィンタープログラムにおいては、フィールドワーク、プロジェクトベースドラーニング、演劇ワークショップを通じたアクティブラーニングなどの手法を実践した。こうした活動を通じて、参加学生たちの間に、**単に情報の共有にとどまらない濃密な感情の交流**が生まれ、歴史認識の差異や、復興の方向性の違いなどをめぐる意見の対立を、ともに乗り越えていこうとする意欲と努力が、自発的に芽生えていった。
3. **三大学合同事業の推進**：三大学合同の**プログラム委員会（ICPC）を二ヶ月に一回開催**する体制を整えた。その際、遠隔システムを利用するセッションと、持ち回りで開催する対面のセッションを交互に実施することとし、理念の確認と情報の共有を進めた。対面のセッションにおいては、単に行政・運営に関する事項を話し合うだけでなく、**プログラムの内容と教育手法にかかわるFDワークショップと連動**させるよう努めた。また、平成30年2月に本学にて開催されたウィンタープログラムにおいては、高麗大学校、北京大学から、**単に学生だけでなく教職員も参加**し、新しい教育手法を具体的に経験した上で、その改善について議論した。それ以外にも、平成29年に**3大学合同のキックオフシンポジウムを本学にて開催**し、平成30年度は高麗大学校にて開催することが決定するなど、三大学が合同で推進する事業の頻度と密度を高めることができた。
4. **多様なイベント活動と広報活動**：キャンパス・アジア学生には、将来のロールモデルを提示し、一般学生には、キャンパス・アジアプログラムへの入口を提供する狙いで、世界で活躍する平和構築の専門家を招聘して行うセミナーシリーズ**“Waseda Meets Global Leaders”**を定例化した。参加者からは、現場の体験に基づく実践的な教育を受けられる貴重な機会として、高い評価を受けている。こうしたイベントは、**メーリングリストやウェブサイト、FacebookやTwitterなどの媒体を通じて積極的に広報**することに加え、その内容や成果を、**ウェブサイトやニュースレターを通じて発信**している。またニュースレターに関しては、**学生が主導的に製作**にかかわり、各大学で進行中のイベントを紹介するなど、その発行自体が、三大学をつなぐ重要なプログラムの一環へと成長した。



← 三大学合同事業としてのアイデンティティ確立のため、共通ロゴを作成・採用



← ウィンタープログラムにて演劇指導中

ウェブサイトの新規作成  
<https://www.waseda.jp/campus-asia/>

CAMPUS Asia Newsletter

Issue 4, March 2018

FY2017 Annual Overview

Special Events:  
 Professionals for Peace  
 Resilience for Conflict Resolution  
 The View from East Asia  
 Summer program Friday presentation  
 Adapting to the Life in Seoul  
 Active Student Involvements

← 学生によるマンスリーニュースレターの発行

